高台に残る測候所（択捉島）

戦前の測候所（撮影年代不明）
戦前の紗那の街は、現在商店街となっている高台に住宅は建っていなかったという
（公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟提供）

択捉島紗那の高台に残る戦前の日本の測候所とみられる建物
以前はロシア地震研究所クリリスク出張所として使われていたが、現在は空き家となっている（2016年9月撮影）

二〇一六年九月に択捉島紗那に自由訪問で訪れた際、旧測候所の建物が現存していることを確認した。旧測候所は戦前、紗那村の小高い丘の上に一軒だけ建っていたという。ロシア側が最近まで地震研究所として活用していたものだが、現在は使われていない。

岩崎忠明さん（紗那村出身）の話
（二〇一六年九月自由訪問団長）

戦前は下から見ると観測棟の二階部分が飛び出しているように見えたが、現存する建物は観測棟部分がなかった。また、モルタルが塗られ屋根はスレート張りで日本の建物とは違う気がした。内部を見学することはできなかったので、責任を持って日本の建物と確認できなかったのは残念。それでも紗那に日本の建物は小学校（紗那国民学校）しか残っていないとされていたので、新たな発見でした

2005年の日本語講師派遣事業で択捉島を訪問した日本語講師が、ロシア地震研究所クリリスク出張所として使われていた測候所に招待された際に、撮影した内部の写真
大きな柱時計には「SEIKOUSYA」のロゴがあり、測候所時代から事務室に掛けられていた物だという（坂本博文氏提供）